

## 勝山市総合行政審議会（第11期第2回）結果概要

開催日時 平成22年1月26日（火） 午後7時00分～午後9時00分

開催場所 教育会館 3階 第2研修室

出席者等 出席委員 13名  
事務局 企画財政部未来創造課

### 1 会長あいさつ

### 2 審議

（1）平成20年度勝山市政策基本目標管理外部評価について

1. 市民が参加する21世紀の夢のあるまちづくり
2. 少子・長寿化等に対応した人にやさしいまちづくり

事務局 項目、評価について詳細説明

#### 委員

- ・市広報は本文を充実し、折り込みを減らしたほうがよい。
- ・災害情報の電子メールはお年寄りには見ることができない。伝達手段についても考えるべきだ。

#### 事務局

- ・当時（平成20年度）は月1回の発行だったのでお知らせや募集が間に合わないため、折り込みが増えていた。現在は月2回発行し、通常版とお知らせ版に分けることで折り込みを減らしている。
- ・災害時は緊急メールと同時に、同報系無線で音声による案内も行う。

#### 委員

- ・市長となんでも語ろう会の参加者が延べ人数366人、平均参加者122人と書かれているが、平成19年度と比較して、実質的な人数はどのように増加したか。

#### 事務局

- ・平成19年度の市長となんでも語ろう会は参加者がやや固定化傾向にあったため、平成20年5月の市長となんでも語ろう会では「安心して子育てができるまちを目指して」をテーマに開催したところ、若い方に多く参加していただいた。平均参加者は前年に比べて増加している。

#### 委員

- ・実人数で出した方が、評価にふさわしい形になる。

#### 委員

- ・ダイレクトメール等、新規参加者を募る取り組みをされているのは評価できる。参加人数だけではなく、新しい取り組みや発言内容の質を評価に加え、もう少しいい評価をしたらよい。

#### 事務局

- ・平成20年度においては、実施回数、延べ人数などを考慮して最低限の成果があったとした。

#### 委員

- ・広報やホームページはよくできているが、内容が煩雑でお年寄りには難しい。内容の周知は、まだまだと感じる。広報の手段は広報紙だけではない。市民みんなに、情報を知らしめるため、さらなる工夫が必要。
- ・市長となんでも語ろう会については、数字だけ倍増したから高評価というのではなく、内容、質、発言者数など、どれだけ市長と有用な語り合いができたかが大事。参加者数が増えたとむしろ発言はしにくくなる、少人数で語り合える工夫も必要。
- ・市民向けの資料は、難しいカタカナ・漢字を使わず、お年寄りにわかりやすい表現にしてほしい。

#### 事務局

- ・市長となんでも語ろう会については、毎回8～10人程度発言があった。また、全体の語ろう会以外に、各種団体との語ろう会を実施している。今回評価の対象となっているのは、全市民を広く対象としている語ろう会である。
- ・法的なあいまいさをなくすという原則はあるが、行政文書の文面が硬くならないようにしたい。

#### 委員

- ・公式ホームページの更新頻度に差がある。当初に比べると、更新が滞っている。公式ホームページは、市外・県外の人にとって勝山の情報を得る窓口なので、こまめに更新するべき。
- ・市長となんでも語ろう会は、数字よりも、どのような意見が出たかが評価の上で大事。
- ・エコミュージアムについては、推進している団体とそうでない団体がある。一部の地域や団体が伸びていても、全体としてはどうなのか。進んでいるところのみがピックアップされている。
- ・全ての項目に言えるが、目標が具体的でない。「積極的に検討する」や「推進する」では、基準が分からない。頑張っただけでは評価のしようがないので、具体的な評価の基準を設定してほしい。

#### 委員

- ・公式ホームページの内容が不十分と感じる。更新されていないページを更新していく必要がある。そのことを踏まえると、満点というのはどうか。評価は4が妥当。

#### 委員

- ・エコミュージアム推進について、一部先行している団体は企業組合となっているが、引き続き市のバックアップが必要。

#### 委員

- ・地上デジタル放送移行の促進については、目標として地上デジタル放送完全移行化とあるので、北谷町難視聴地区の問題を残すというのであれば、5でよいのか疑問である。

#### 委員

- ・私は5でいいと思う。市全体を完全にというのは、なかなか困難な話である。

#### 委員

- ・完全移行が目標なら、それを満たしていないのに5というのはどうか。評価の視点がどこにあるか考え、目標に対する達成度を見るとしたら、5というのはおかしい。

#### 委員

- ・評価基準の4は、かなりの成果があったということだ。4をつけるということは、人口単位、地域の面積割合などを見ているのか。1人が住んでいる地域が視聴できないと、全ての地域の評価がダメというのはおかしい。

#### 委員

- ・難視聴地区があるのは目標を立てる段階から分かっていたことではないのか。

事務局

- ・地上デジタル放送については準備の段階であり、最終期限が来ているわけではない。目標設定に問題があるが、北谷町難視聴地区の問題は平成21、22年度の課題として作業している。

委員

- ・農村のワーキングホリデーを移住促進の項目の中に入れ、政策として進めていただきたい。

委員

- ・前年度も申し上げたが、勤務評価制度については、昇格試験を導入すべきである。開かれた市政という意味からも、ぜひ試験を導入していただきたい。
- ・工事等入札制度改善については、導入するという目標に対して、実際に2件実施したのだから評価は5でいい。

委員

- ・消防広域化により、サービスが低下しないか心配。市民の生命・財産をしっかりと守って欲しい。

事務局

- ・勝山市としては、いつでも広域化に対応できるよう事務手続きを進めている。全体としての進展はなかったが、勝山市の消防としてやれることはやった。
- ・消防広域化でサービスが低下することはないので安心して欲しい。

委員

- ・目標の設定はいつまでの期限とするのか。しっかり決めてほしい。

事務局

- ・平成19年度の評価は目標を設定せず行った。審議会の指摘を受け、平成20年度秋に各担当課で目標を設定したが、基準に統一性や数値的な裏付けがなかったりすることは反省点。

以上